

KOUTOKU コミュニティ・スクール（学校運営協議会）通信②

令和7年7月8日 発行 教務部

7月5日（土）、委員6名、本校生徒16名（3年8名、2年4名、1年4名）、保護者7名、大学生5名、教員7名が参加し、コミュニティ・スクール（CS）の3回目の会議を実施しました。参加者は5グループに分かれて、今回は「本校の魅力発信」と「光陽祭」に焦点を当てて熟議をしました。

「できない」という発想は捨てて、みんなが楽しい「光陽祭」について自由に意見を出し合いました。斬新な意見もありましたが、実現できそうなものもあり、今後の展開が期待されます。



学校運営協議会の様子



今回は、教員は少し離れて見守ります。



CS 委員長、校長が CS への思いを熱く語ります。



生徒会役員が前回の報告をします。



5 グループに分かれて熟議。大学生のファシリテートのもと、積極的に意見を交わします。

【熟議の様子】

○光陽祭

(現状)

- ・製品を販売し、地域の方に知ってもらえる機会。
- ・販売が忙しすぎてフリーマーケット状態。
- ・お客さんも手持ち無沙汰。食事もなく滞在時間が短くなってしまう。
- ・生徒が楽しめていない。
- ・インスタも滞り気味。



(提案)

- ・2日間実施を提案。(例) 1日目学内で有志の発表。2日目はこれまでのような企画。
- ・滞在時間が短いことに対して、キッチンカーはどうか(働く人を見る、ルールを守るなど)。
- ・各コースの整理券が少ないので当選率を上げる。
- ・ダンスや劇など自分たちが楽しむ企画もやりたい。
- ・販売を縮小してコース VS 職人などの対決企画。
- ・2日目は各コースのブースを回るスタンプラリーで抽選会など 景品は各コースの製品。
- ・個人が自分のやりたいことを表現できる場→ライブ(生徒、教師も)歌、ダンス、演奏、屋台など。
- ・ソーイングにタオルを作ってもら。総合にカフェ、ウッド・メタルにペンライト→夕方きれい
フード・グリーンで屋台の食べ物(サンドイッチなど)。
- ・コース体験(他コースの生徒も地域の方も)
- ・光陽祭の最後に参加者全員で願い事を書いてランタン飛ばし。
- ・地域の人に発信したい。お知らせ、告知→Youtube、インスタ(安全面に気をつけながら)。

(光陽祭の魅力をさらに＝本校の魅力発信)

- ・Youtube やポスターで参加者を募る。
- ・限定グッズを作る。
- ・メロンパン、お菓子、パフェづくりなど普段できないことを。
- ・TVでの発信 いば6、学校かくれんぼ、逃走中など。
- ・茨城大学や茨城キリスト教大学等とのコラボ。



【熟議の記録（ホワイトボード）】

